

県内企業への就職内定率は100% 自動車システム工学科学生全員の進路が決定(就職内定率17年連続100%)

自動車システム工学科では、高い県内就職内定率を誇っています。毎年、多くの学生を就職に結びつけているのが、主要自動車メーカーから講師を迎えて新しいクルマの技術を学ぶ「最新技術講習シリーズ」と就職活動へのモチベーションを上げ、働く現場で自動車整備について知る・学ぶために行われる「2社でのインターンシップ」。各社の技術担当者や採用担当者と直接話ができるので、学生は自動車業界のニーズを把握して自分の希望に合った会社選びを進めることができました。

株式会社ホンダ四輪販売北・東北 内定



齊藤 楓大

青森県立弘前実業高等学校卒業

私は、自動車整備士として活躍している兄に憧れ、高校卒業後に青森県立弘前高等技術専門校の自動車システム工学科に進学しました。1年生の後半のインターンシップでは、数多くの求人票から自分が興味のある会社を2社選択してインターンシップをすることができたので、進路を選択するうえで幅が広がりました。インターンシップ先の株式会社ホンダ四輪販売北・東北神田店に行った際には、「常に夢を持ち高い目標へチャレンジする」という経営方針やお客様に常に明るく笑顔で接客をしている整備士の方々を見て、「自分もここで働きたい」と思い、同社に応募し内定をいただくことができました。

4月からは、本社での入社式や新人研修が始まりますが、将来はホンダサービスエンジニア1級や自動車検査員の早期取得を目指し、お客様から大切な愛車をお預かりする立場として、常に確かな仕事・丁寧な対応を心掛けて仕事をしていきたいと思えます。



2年間学んだ自動車整備の総まとめ 3月に実施される2級自動車整備技能登録試験に向けて勉強中

自動車システム工学科2年生は、3月24日(日)に実施される2級自動車整備技能登録試験に向けて、今まで学んだ内容の集大成として受験対策に取り組んでいます。自動車整備士になるためには、一定の受験資格を満たしたうえで、国土交通大臣の行う自動車整備士技能検定を受け、合格しなければなりません。全員の合格を目指してクラスが団結し、みんなで支え合いながら頑張っています。今年も全員が合格して10年連続で「全員合格」を達成できるよう期待しています。



【三橋 颯太】

令和6年3月24日に行われる2級自動車整備技能登録試験に向けて、毎日、過去に出題された問題を解いて受験対策をしています。試験まであと残りわずかとなったので、整備士の合格をめざして頑張ります。

【駒井 悠斗】

楽しかった2年間の学生生活もあっという間に終わりに近づいています。昨年の12月でアルバイトも辞め、毎日学科を勉強しています。整備士の資格取得を目指して、ラストスパートで頑張ります。

自動車のしくみをイチから学び 基礎から着実に知識や技能スキルを習得してスキルアップ

1年生では、自動車の基本から始まり安全性や各部分の機能、材料や整備の基礎といった理論を学びながら、知識と技術が連動した授業で理解を深めます。ガソリンエンジン・ディーゼルエンジンの分解・組み立てでは、クルマの核となるエンジンの仕組みをしっかりと学んでいきます。エンジンの分解・組み立て作業に関心のある方は、7月に開催されるオープンキャンパスで体験することができるのでエントリーお待ちしております。



県内企業への就職内定率は75%超 建築システム工学科学生全員の進路が決定(就職内定率8年連続100%)

建築システム工学科2年生の学校斡旋就職を希望した学生5名と自己開拓の学生9名全員の進路が決定しました。インターンシップでの経験を活かしながら、学生全員が納得する企業から就職内定をいただきました。内定をいただいた学生達には、残りわずかな学校生活を有意義に過ごし、4月からは社会人として活躍してくれることを期待しています。

株式会社ヤマノアーキデザイン 内定



小山内 陽菜

弘前学院聖愛高等学校卒業

私は将来、自分で自分の家を設計できたらと思い高校卒業後に青森県立弘前高等技術専門校の建築システム工学科に進学しました。2年生のインターンシップでは鶴田町にある株式会社ヤマノアーキデザインで実習をさせていただき、会社の概要説明では自分が思い描いていたことと会社の経営方針に共感することが多くあり、とてもお客様を大切にしている会社という印象を持ちました。作業ではCADの3Dパースを使って図面を描いたり、五所川原市にある住宅展示場の見学を行い建築の奥深さを学ぶことができたので、就職も同社に応募し、内定をいただくことができました。

設計事務所の強みは、お客様の要望やライフスタイルに合わせ「ゼロ」から提案できることです。4月からはお客様や施工する職人さんとの対話を大切に「ちゃんと考え、きちんとつくる」ことを心掛けていきたいと思っています。



建設業の未来を創る仕事シリーズ① 「県産材の魅力と数寄屋造りの伝統技術を若い世代に伝える」

総合建築科では今後の進路選択において建設業界で活躍している方々を講師として招き、それぞれの会社に取り組んでいることや施工事例を見て聞いて体験をする「建設業の未来を創る仕事シリーズ」として、今年度から県内の企業にご協力いただき職業講話を実施しています。

今回は数寄屋建築で有名な株式会社大山建工(五戸町)の代表取締役社長である大山慎司氏を講師に迎え「県産材の魅力と数寄屋造りの伝統技術を若い世代に伝える」を題材として、数寄屋建築の概要、建物づくりのノウハウ及び青森県産材の魅力について話していただきました。

数寄屋建築については、安土桃山時代に千利休によって確立され、茶道の「わびさび」の考え方から豪華絢爛にせず、余計なものを削ぎ落としたシンプルな美を表しているもので、これは豪華絢爛さでお客様をもてなすのではなく、部屋をシンプルにして茶人の人間性をもてなすことを意味しているということでした。

この他にも株式会社大山建工では県産材を積極的に建物材料として利用しており、特に県内の森林で採れる「ヒバ」「杉」「赤松」は木の質感や木肌がきれいであるので建築材料として全国的にも高い評価を得ているということでした。

学生からは、「初めて数寄屋というものの存在を知りました。一般の住宅とは違い開口部(窓)を大きく取り、リビングや寝室からも庭が見えるようになっている設計をしていることに驚きました」「今回の数寄屋建築についての話を聞いてみて、建築というものは幅広いものだと感じさせられる時間となりました。実際に伝統や工法を守り続けていくことが如何に大切で難しいものかを次の世代や自分らが考えていくべきだと考えさせられました」「数寄屋の建物は実習で使っている柱材と異なり、シャープな丸太材を組み合わせて施工されているので、部材の加工がとても難しいと感じました」などの感想がありました。



数寄屋建築に使われる北山杉



建設業の未来を創る仕事シリーズ②

「時代を超えて受け継がれる日本の伝統建築 宮大工の仕事の後世に伝える」

建設業の未来を創る仕事シリーズの第2回目は、2020年12月に木造建造物を受け継ぐための17件の技術からなる「伝統建築工匠の技」がユネスコ無形文化遺産に登録されており、そのうちのひとつである「宮大工」の仕事について、全国でも数少ない文化財建造物木工技能者の資格を持ち、一級建築大工技能士20名が在籍する卓越した宮大工集団をまとめる株式会社松本工務店(南部町)の社寺部長である清水栄作氏を講師に迎え、「時代を超えて受け継がれる日本の伝統建築 宮大工の仕事の後世に伝える工匠の技を学ぶ」を題材として、社寺建築の概要と設計、「木組み」という伝統的な木工技術について、実物の部材を使った説明と実演による講義をしていただきました。

その後、社寺建築の具体的な施工事例として、八戸市鮫町にある蕪嶋神社再建をはじめ、同市豊崎町の普賢院本堂及び弘前市西茂森の長徳寺本堂・位牌堂等の建て替え工事のエピソードや現場管理について、動画と写真で補足しながら説明していただきました。

学生からは、「いい仕事をするためには段取りや準備が大切であるということ学びました。何歳になっても常に学び続け、先を見て行動し周囲に気を配れる職人になりたいです」「持参していただいた手工具の『かん』や『のみ』を見せていただき、伝統技術の継承の一端を担う方の道具の整備についてとても勉強になりました。これからは腕を磨くことを怠らず、スキルアップできるようにしていきたいです」「ひとつの建物を造るにしても宮大工の仕事は常に学び続けることの大切さを教わりました。一日一日をコツコツと積み上げることで理想の宮大工像に近づきたいです」などの感想がありました。

この特別授業は、普段、連日マイスターに認定されている講師の清水栄作氏に、講義の中で清水大工が担当する一戸建ての建築の未来を創る仕事シリーズの第一弾となる。講師を務めた清水氏は、全国でも数少ない文化財建造物木工技能者の資格を持つほか、全工種に精通し、木組みや手工具の使い方や様々な種類の木組みを解説した。

宮大工の魅力伝える

松本工務店 清水栄作氏を講師に

清水栄作氏の仕事や取り組みに魅了される建設業の未来を創る仕事シリーズの第一弾となる。講師を務めた清水氏は、全国でも数少ない文化財建造物木工技能者の資格を持つほか、全工種に精通し、木組みや手工具の使い方や様々な種類の木組みを解説した。



蕪嶋神社 (八戸市)



宝照山普賢院 (八戸市)



令和6年3月4日掲載
(日刊建設青森)

モノづくりは人づくりから 地域に根差した職業能力開発校をめざして